

# みやこはし 京の橋しるべ

第5号!!

(平成26年6月発行)

## ◆「老朽化修繕」への取組み②

今回は、前回紹介した「老朽化修繕」の取組（損傷調査の方法、コンクリート部材の補修事例）に引き続き、鋼部材の補修事例を紹介します。

## ◆「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」の概要

橋の劣化は様々な要因によって生じます。「鋼橋」（上部工の主桁等に鋼材を用いた橋）で劣化の最も多い要因は鋼部材の腐食です。また、主桁の端部は、狭く、風通しも悪いため、堆積した土砂や雨水の滞水などにより、腐食しやすい箇所となっています。そのため、鋼橋の補修工事では、腐食を防ぐ対策が重要となります。

### ① 桁端部の腐食・支承の機能劣化



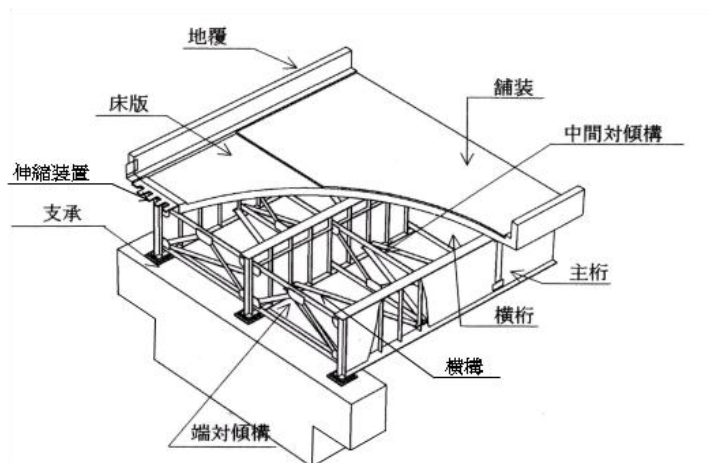
←主桁の端部や支承の腐食状況。鋼部材の厚みが減少するなど、著しい劣化が生じています。（光砒口橋）

### ② 鋼材の腐食



←主桁、横構の腐食状況。橋面からの漏水などにより、腐食が進行します。（開花橋）

### ■鋼橋の部材の名称



## ◆補修の事例（鋼部材）

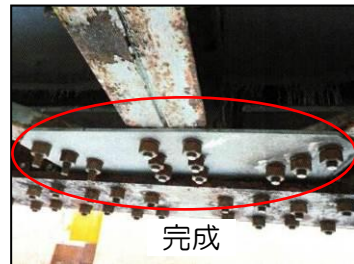
鋼部材の損傷に対する補修事例を紹介します。

- ① **塗装塗替え工**：防食機能の劣化した塗膜を除去し、新しい塗装で鋼部材を被覆することによって腐食の原因となる環境（水や酸素）から鋼部材を守ります。



↑劣化した塗膜や錆，汚れを除去し，ローラーや刷毛で新しい塗装を塗り重ねていきます。（御池大橋）

- ② **部材取替え工**：腐食により鋼部材の厚みが著しく減少している部材全体を取り外して新しい部材と取り替えます。



↑横構等の連結板を新しい部材に取り替えました。（開花橋）

## ◆補修事例（その他の部材）

- ③ **鋼製支承の防錆工**：古い塗装を除去し、亜鉛溶射による防食を行います。また、支承のすべり面には潤滑性の防錆材を注入し、移動機能の回復も行います。



↑腐食が生じていた支承に対し，防食機能及び移動機能の回復を行いました。（御池大橋）

- ④ **高欄補修工**：損傷部分の補修に加え，高さが現行の基準を満足していない場合は，高上げを行います。



↑高欄に手すりを追加し，転落に対する安全性を高めました。（開花橋）



## 〈京の橋の紹介⑤〉

### 慶流橋（けいりゅうはし）

場 所：左京区岡崎円勝寺町  
道 路 名：一般市道神宮道  
河 川 名：琵琶湖疏水  
橋 の 種 類：コンクリート橋  
橋 長：24m  
幅 員：23.0m  
完 成 年：昭和38年（1963年）

慶流橋は、国の登録有形文化財である平安神宮の大鳥居前に位置し、琵琶湖疏水を渡河しています。橋からは大鳥居越しに平安神宮の応天門を望むことができ、橋は周辺と一体的な景観を形成しています。

慶流橋の歴史は比較的新しく、明治28年（1895年）3月に創建した平安神宮の南側で開催された第4回内国勧業博覧会（明治28年4月1日から7月31日）のために建設されたもので、木製の橋でした。

その後、昭和38年（1963年）に車両の通行に対応するため、現在のコンクリート橋に架け替えられ、高欄は平安神宮の大鳥居の彩りに合わせて朱塗が施されました。



平成19年に補修を行った際にも、大鳥居の色と同色の塗料を特別に作り、高欄の塗り直しを行っています。

高欄の青銅製の擬宝珠には、平安京を造営した桓武天皇をたたえ、とともに、平安神宮創建の市民の喜びを伝える銘文が刻まれています。

現在、京都市では、神宮道（冷泉通～二条通）と沿道の公園、施設の再整備を計画しています。

慶流橋のある岡崎地区がますます魅力的になるよう整備を進めてまいりますので、市民の皆様の御協力をお願いします。



## ◆京の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ（みやこのはししるべ）」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様に「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして（案内して）いきたいということで名づけました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課（電話 075-222-3561）

